

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

【基本情報】

氏名・団体名：高崎未央
(まちなか学生シェアハウスII)

学校名：富山大学

① あなたが関心を持つグローバルな社会課題は何ですか？ その課題を選んだ理由や、きっかけとなった出来事・経験などがあれば教えてください。

私が関心を持つ課題は、「生理の貧困」であり、それが引き起こす女性の社会的排除と心身の健康格差です。世界では毎月、数億人の女性が生理用品の欠如やスティグマによって学びや就労の機会を奪われています。生理は普遍的な身体現象で

あるにもかかわらず、その不平等は沈黙のうちに放置され、ジェンダー不平等を再生産しています。台湾留学中、私は世界唯一の「月経博物館」を設立したNPOで3ヶ月間ボランティアを経験しました。生理用品を配布する活動に携わる中で、単なる数百円の物資支援以上の意味を実感しました。継続的に支援を行う場では、女性が抱える身体的・精神的負担や、性的虐待といった声なき声が共有され始めます。私は生理の貧困への支援は、女性の権利と尊厳を守るための最初の扉であり、そこから社会全体を変革する可能性があると感じました。



▲運営メンバーと



▲対話のワークショップの様子

そこから社会全体を変革する可能性がある

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

② その課題の解決に向けて、あなたが考えるアイデアやアプローチを教えてください。

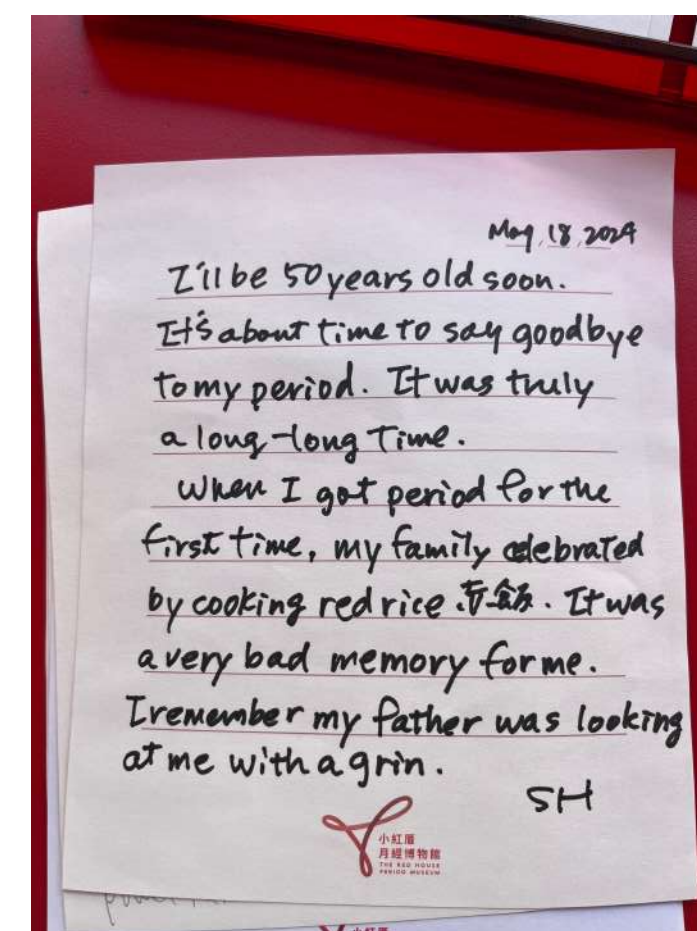
技術、仕組み、キャンペーンなど、発想そのものを自由に書いてみよう！

「生理の貧困支援から始まる、女性の心身に寄り添う包括的アプローチ」

生理の貧困支援を起点とし、女性の体と心に関する包括的な相談・表現・発信の場を地域に根付かせ、女性が直面する課題へのアプローチを、まずは大学のある富山市から始めます。

1. **物資支援から始まるアクセス**：所属しているシェアハウスのコミュニティを拠点とし、ボランティアを募ります。生理用品を安定的に提供し、安心して足を運べる場をつくります。
2. **声を拾う仕組み**：その場を通じて身体の悩みや精神的負担、ジェンダーに関する課題を気軽に語れる空間へ拡張します。富山県民共生センターと協働し定期的な相談システムを構築します。
3. **アートと対話の導入**：女性の経験を絵画・写真・文章などで可視化したイベントを開催し、スティグマを社会的に解体します。
4. **発信と連携**：地域で得た知見をSNSやメディアで発信し、国内外の団体・研究者と連携してネットワーク化します。ラジオパーソナリティや新聞でのエッセイ連載経験を活かし、多様なメディアで活動を発信、広報します。

まず富山市で実証し、全国の地方都市へと展開します。各地域の女性センターや学生団体と協力し、生理用品配布とワークショップを組み合わせた「声を拾う拠点」を設置します。その後、台湾のNPOやノルウェーの研究者と連携し、各国の社会制度や文化に合わせて調整した形で導入し、国際的に共有可能な「ローカル発グローバルモデル」を構築します。



▲台湾の月経博物館の投書コーナーには、生理によっていかに精神的なダメージを被っていたがか書かれていた。ナプキンを配布し、コミュニティを作ることとは問題の可視化にも繋がるのだと実感。

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

③ そのアイデアを実現するとしたら、どんな準備やステップが必要になると思いますか？

「いつ・どこで・誰と」連携するか、必要なリソースや協力体制など、実現までの道筋を描いてください。

「いつ・どこで・誰と」連携するか

【スケジュール計画】

拠点と連携先：富山県の女性センターでのインターン経験や、まちなか学生シェアハウスfilのネットワークを活用。若者と地域住民が交わる場を拠点に活動を開始する。

発信の契機：2026年1月に予定している留学生生活をまとめた個展でプロジェクトを発表し、共感する市民や企業から支援者を募る

協力体制：学生ボランティア、地元NPO、医療従事者、カウンセラーを含む多層的なネットワークを構築。



▲左) 富山シティFMでのラジオ収録の様子
右) 過去リーダーとして活動したまちなか文化祭の様子
地域ネットワークを最大限活用し、今回の計画も実践予定

必要なリソースや協力体制

【予算計画】

①総予算：

32万 円

②費用の内訳(例…印刷費2万円、交通費5万円)：

生理用品の調達・配布：12万円／年（対象50人×月200円分）

ワークショップ・アート企画費：10万円

専門家謝礼（医師・カウンセラー）：10万円

③資金調達方法

(例…クラウドファンディング、学校からの補助金)：

クラウドファンディングで参加型の資金基盤を築き、地域企業から協賛を獲得。自治体のプロジェクト助成金を併用し、安定的な財源を確保する。

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

JANIC2025学生アイデアコンテスト応募用紙



※当てはまる方に☒をいれよう！

④ そのアイデアの実現に向かって今のあなたが踏み出せそうな一歩（アクション）はありますか？

☒すでに取り組んでいることがある：できるだけ具体的に教えてください。

☐まだ実行していない：「これなら始められそう」と思う最初の一歩があれば書いてみてください。

・また、そのアクションを始めるうえで、あるいはさらに広げていくうえで、自分にとってどんな支援や環境があると助かるかも教えてください。

9月以降の計画

台湾での実践経験のほか、9月上旬にノルウェーにて「生理とアート」をテーマにした国際プロジェクトに運営メンバーとして参加予定です。異文化における生理の表現や議論のあり方を学び、それを日本の地域活動に還元したいと考えています。帰国後は、女性センターや学生コミュニティを基盤にネットワークを強化し、1月にワークショップや座談会を実施する予定です。

また、現在、地方女性が抱える特有の悩みをnote上で連載「22歳、富山女子の交換日記」として発信しています。

求める支援

このアイデアを実現するにあたり、持続的な資金支援と専門的知見の共有が不可欠です。特に、地域女性センターや教育機関からの協力、医療・心理の専門家によるアドバイス、そして活動の社会的意義を広めるためのメディア発信の場があると大きな力になります。また、学生という立場で活動を継続するために、同世代のボランティア仲間や自治体職員との協働の機会を得られる環境も重要です。支援を得ることによって、生理の貧困支援を超えて

「女性の体と心に寄り添う包括的な地域アプローチ」として活動を展開できると確信しています。



note上の連載▼

22歳、富山女子の交換日記

▲ノルウェーで実践するアートプロジェクト

22歳、富山女子の交換日記#6/地域特性ってなに！

♡ 23

mio 北畠留学記
2025年8月25日 14:14